

通し番号	58	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2	年	国語	言語文化	必履修	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>					
教材	新編 言語文化(大修館)					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観 点	評 価 方 法
知識・技能	定期考査・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・グループ活動・発表・提出物
主体的に学習に取り組む態度	グループ活動・発表・提出物・学習観察

3 履修上および学習上の注意

読書をこころがけ、積極的に文学作品に触れるようにしてください。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	言葉の森を育てよう	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 言語とはどういうものかを思考する (主) 主体的に課題に取り組む	6
5	とんかつ	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 筆者の主張の流れをとらえる (主) 主体的に課題に取り組む	7
6	児のそら寝	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 敬語などの言葉の使い方を適切に使い分ける力を養う (主) 主体的に課題に取り組む	6
7	高名の木登り	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 登場人物のセリフの流れに着目する (主) 主体的に課題に取り組む	6
8	訓読のきまり	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 漢文の基本的な用法を身につける (主) 主体的に課題に取り組む	7
9		【前期期末考査】	
10	羅生門	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 登場人物の心情の変化をとらえる (主) 主体的に課題に取り組む	10
11	祖母が笑うということ	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 二つの異なる意見を比較し、それぞれの良しあしを考える (主) 主体的に課題に取り組む	7
12	夢十夜	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 文章全体の構成や接続表現の役割を考える (主) 主体的に課題に取り組む	7
1		(知) 重要語句を正確に覚える	
2	筒井筒	(知) 重要語句を正確に覚える (思) 話の構成や展開を工夫して話す (主) 主体的に課題に取り組む	7
3	学問のすすめ	【後期期末考査】 (知) 重要語句を正確に覚える (思) 対比の関係に注目し、その意図を考えながら読む (主) 主体的に課題に取り組む	7
			合計
			70

通し番号	59	←通し番号を打つと下記に表示されます。			
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要					
学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2 年	地歴公民	地理総合	必履修	2
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。【学びに向かう力、人間性等】</p>				
教材	<p>高校生の地理総合（帝国書院）</p> <p>標準高等地図（帝国書院）</p> <p>高校生の地理総合ノート（帝国書院）</p>				
留意点				開講予定人数	
2 評価					
(1) 評価の観点					
観点	趣旨				
知識・技能	地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている				
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する。地理的な課題の解決に向けて構想する。考察、構想したことを効果的に説明する。				
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する。				
(2) 評価方法					
観点	評価方法				
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察				
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察				
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察				
3 履修上および学習上の注意					

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1部第1章 地球儀と地図 地図と地理情報システム	【知】地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 【思】各種の地図や地理情報システムの特徴、利用について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	4
5	第1部第2章 現代世界の国家と領域 地図から見る国内や国家間の結びつき	【知】世界を構成する国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。 【思】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】国家の領域、領土問題、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだしている。	5
6	第2部第1章 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活	【知】世界の多様な生活文化が、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 【思】世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	14
7	世界の産業と人々の生活		
9	世界の宗教・民族・言語と人々の生活		
10	多様な生活文化と地理的環境 事例1～10		16
11	第2部第2章 複雑に絡み合う地球的課題 人口問題 食料問題	【知】地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを理解している。 【思】地球的課題や、その解決のための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力のあり方について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	11
12	都市・居住問題 感染症・衛生問題 資源・エネルギー問題 地球環境問題		
1	第3部第1章 日本の自然環境 地震・津波や火山活動による災害と防災 気象災害と防災 自然災害への備え		
2		【知】自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。 【思】自然災害の特徴、防災・減災への取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	12
3	第3部第2章 生活圏の調査と地域の展望	【知】生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解している。 【思】事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	8
			合計 70

通し番号	60	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2	年	保体	体育	必履修	2
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p>					
教材	<p>現代高等保健体育（大修館書店）</p>					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	実技テスト・ゲーム、ワークシート
思考・判断・表現	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向け</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション		1
	1 「体づくり運動」	「体づくり運動」 【知】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照	6
5	2 「体育理論」		3
	3 「球技<ネット型>（バレーボール）」 「球技<ネット型>（ソフトテニス）」	「体育理論」 【知】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している 【思】 課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】 主体的に学習に取り組んでいる	9
6	4 「球技<ネット型>（ソフトテニス）」 「球技<ネット型>（バレーボール）」	「器械運動（マット運動：集団）」 【知】 回転系や巧技系の基本的な技滑らかに安定して行うこと、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること、ができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、よい演技を讀えようとしている	9
7		「球技<ゴール型>」 【知】 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	
8	5 「球技<ネット型>（バドミントン）」 「球技<ゴール型>サッカー +	「球技<ネット型>」 【知】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	9
9	<バレーボール型>ソフトボール」	「球技<バレーボール型>」 【知】 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	
10	6 「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」	「武道（柔道）」 【知】 相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている	9
11	7 「領域選択」 ・ 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」 ・ 「器械運動（マット運動：集団）」 ・ 「ダンス」	「ダンス」 【知】 ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】 下記※1 参照 【学】 下記※2 参照、互いに共感している	9
12		「スキー」 【知】 応用的・発展的な技能を習得する楽しさ・喜びを味わうとともに、斜面に応じた実践的なスキー操作をすることができる 【思】 下記※1 【学】 下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている	
1	8 「体育理論」		3
2	9 「スキー」	※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる ※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している	12
			合計
			70

通し番号	61	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2	年	保体	保健	必履修	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
教材	現代高等保健体育（大修館書店）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・1単位科目のため欠課時数に留意すること。 ・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション		1
	【生涯を通じる健康】	「生涯の各段階における健康」	
	01「ライフステージと健康」	【知】生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している	8
5	02「思春期と健康」	【思】生涯を通じる健康における事象や情報などについて整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している	
	03「性意識と性行動の選択」	【学】生涯の各段階の健康に関心を持ち、積極的に授業に参画している	
	04「妊娠・出産と健康」		
6	05「避妊法と人工妊娠中絶」		
	06「結婚生活と健康」		8
7	07「中高年期と健康」		
	08「働くことと健康」	「労働と健康」	
	09「労働災害と健康」	【知】労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をすることが必要であることを理解している	
8	10「健康的な職業生活」	【思】働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している	
	【前期期末考査】	【学】労働と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している	1
9	【健康を支える環境づくり】		
	01「大気汚染と健康」	「環境と健康」	
	02「水質汚濁、土壌汚染と健康」	【知】人間の生活や産業活動は健康に影響を及ぼすことがあること、それを防ぐためには汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること、環境衛生活動はある基準に基づき行われていること、を理解している	6
10	03「環境と健康にかかわる対策」	【思】人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している	
	04「ごみの処理と上下水道の整備」	【学】環境と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している	
11	05「食品の安全性」	「食品と健康」	
	06「食品衛生にかかわる活動」	【知】食品の安全性の確保は健康を保持増進する上で重要であること、食品衛生活動は食品の安全性を確保するための基準に基づき行われていること、を理解している	3
		【思】食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てることができる	
12		【学】食品と健康の関係に関心を持ち、積極的に授業に参画している	
	07「保健サービスとその活用」	「保健医療制度及び地域の保健医療機関」	
	08「医療サービスとその活用」	【知】保健・医療制度や地域の保健所・保健センター・医療機関などを適切に活用する必要があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること、を理解している	4
	09「医薬品の制度とその活用」	【思】地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している	
1		【学】保健医療制度に関心を持ち、積極的に授業に参画している	
	10「さまざまな保健活動や社会的対策」	「様々な保健活動や社会的対策」	
2	11「健康に関する環境づくりと社会参加」	【知】我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している	3
		【思】身近な地域や世界にある健康課題について、習得した知識を基に現在必要とされていることを整理し、自他の健康を保持増進するための環境づくりに主体的に参加する態度を身に付けている	
3	【後期期末考査】	【学】中高年期の健康について関心を持ち、積極的に授業に参画している	1
		「健康に関する環境づくりと社会参加」	
		【知】自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりに積極的に参加していくことが必要であること、そのためには適切な健康情報の活用が有効であること、を理解している	
		【思】ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てることができる	
		【学】健康に関する環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している	
		合計	35

通し番号	62	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修・選択	単位数
情報ビジネス科	2年	芸術	音楽 I		2
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。 				
教材	教育出版 音楽 I Tutti +				
	自作のプリント・楽譜など				
留意点				開講予定人数	20

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	【知】 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 【技】 姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。【知】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。
思考・判断・表現	音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの動きを感受しながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの動きを感受しながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。
主体的に学習に取り組む態度	西洋音楽の源流を中世からルネッサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で迎えることに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。器楽アンサンブルや合唱の発表、独唱のテストに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察
思考・判断・表現	ワークシート・学習観察
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト・学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>※楽典、ギター、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、など幅広く取り組みます。</p> <p>※タブレット、紙ファイルA4版、五線ノート8段～12段を用意してください。</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	ガイダンス、校歌、カーロミオベン、楽典（楽譜の基本的な知識学習）	【知】 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 【技】 姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	6
5	イタリア歌曲「カーロ・ミオ・ベン」楽典基本問題集確認テスト 楽典基本問題集、確認テスト	【知】 「カーロミオベン」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 【技】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、速度、旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	8
6	楽典基本問題集 ギター基礎知識 確認発表	【知】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。 【技】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。	6
7	ギター音の出し方 確認発表	【思】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	8
8	ギターメロディーを弾くためのテクニック ・アルペジオ 確認発表	【主】 ギター奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をするに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	4
9	変奏曲の魅力を探ろう —バガニーニが残した名変奏曲— 古の音楽に思いをはせよう —雅楽、悠久の響き—	【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	8
10	リコーダーアンサンブルを楽しもう	【知】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。 【技】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。【思】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【思】 リコーダーの奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をするに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	8
11	オーケストラの魅力を探ろう —二つの旋律から広がる音楽— 吹奏楽の魅力を味わおう —鯨のモチーフが紡ぎ出す雄大なドラマ—	【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いているオーケストラの様々な楽器の音色や響き、またボレロのリズムに乗せた二つの旋律が展開されながらもたらず表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【思】 吹奏楽の様々な楽器の音色や響き、また繰り返されるモチーフの変化と曲想や表現上の効果との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	8
12	名曲プレゼンテーション —さまざまな時代のピアノ 曲を聴こう—物語と音楽との関わりに注目しよう —総合芸術における音楽の魅力—	【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【思】 冬季休業中に作成した紹介文を使ってミニ・コンサートを行い、時代や作曲家の違いによる音楽の特徴を感じ取りながら曲や演奏について根拠をもって批評することに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	6
1	世界のさまざまな音楽の魅力 I —和楽器の音と世界の楽器の音—	【知】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 【技】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【思】 日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取ることで、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	4
2	コンサートを開こう—音楽 I のまとめとして—	【知】 音楽 I の 1 年間の学習における表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。 【技】 音楽 I の 1 年間の学習における技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもっている。 【思】 1 年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、音楽 I の 1 年間の学習を経て自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心をもち、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	4
3			合計 70

通し番号	63	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2	年	芸術	美術 I	必履修	2
科目の目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度養う。</p>					
教材	<p>高校生の美術 1 (日本文教出版)</p>					
留意点					開講予定人数	15

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	制作物、小テスト、ワークシート、学習観察
思考・判断・表現	制作物、小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	制作物、小テスト、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・教材費として6,000円程度を徴収する予定である。・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	・オリエンテーション （1年の流れ、成績について 教室の使用ルール） ・美術史	（美術史） 【知】それぞれの時代の作品の効果、構図、色彩などを基に、全体のイメージや作風、様式などを捉えることを理解している。	2
	・色彩の基本	【鑑】さまざまな作品の造形的なよさや美しさを比較しながら感じ取るとともに、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きや、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから、生活や社会の中の美術や美術文化について考え、見方や感じ方を深めている。	4
5	・鉛筆デッサン	【鑑】主体的にさまざまな作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから、生活や社会の中の美術や美術文化について考えながら、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	4
	・油彩（静物）	（鉛筆デッサン） 【知】形や陰影などの造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【技】意図に応じて用具の特性を生かすとともに、デッサンの表現方法を追求している。 【発】モチーフをよく観察し、形態や陰影などの表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】デッサンの美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 【主】主体的にデッサンの鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	6
6	・立体	（油彩） 【知】油彩の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 【技】油彩の制作方法をふまえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。 【発】モチーフをよく観察し、油彩の特徴を理解し、追求しながら構想している。 【鑑】主題に応じて油彩の表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】油彩の美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、おこつ見方や感じ方を深めている。 【主】主体的に油彩の表現の多様さを感じ取り、鑑賞活動や表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	18
10	・映像メディア表現	（立体） 【知】造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【技】制作方法を踏まえ、意図に応じて用具の特性を生かすとともに表現方法を追求している。 【発】主題に応じて表現方法について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】美しさを感じ取り、作者の意図と制作工程における工夫を感じ取り、見方や感じ方を深めている。 【主】主体的に制作工程における工夫などについて考え、作品の鑑賞活動に取り組もうとしている。	16
12	・1年間まとめ	（映像メディア表現） 【知】画面の構成や時間の効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 【技】意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表している。 【発】感じ取ったことや考えたことなどを基に、アニメーションによる表現の特性を生かして主題を生成し、画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【鑑】アニメーションの特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【態表】アニメーションによる表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 【態鑑】アニメーションの鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	18
3			2
			合計 70

通し番号	64	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
情報ビジネス科	2 年	数学	数学 A	必修	2
科目の目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教材	「最新 数学 A (数研出版)」				
	「書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用パラレルノート 数学 A (数研出版)」				
留意点	数学 I の復習をすること。			開講予定人数	必修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見い出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	定期考査・単元テスト・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表
主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題

3 履修上および学習上の注意

副教材を、授業や家庭学習で活用する。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 場合の数と確率 第1節 順列・組合せ	【知】 数え上げの原則や集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解することができる。 【思】 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求めることができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	16
5			
6	【前期中間考査】		1
7	第2節 確率	【知】 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。また、確率を事象の考察に活用することができる。 【思】 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。また、それを事象の考察に活用することができる。条件付き確率条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	16
8			
9	【前期期末考査】		1
10	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	【知】 三角形の合同条件、相似条件などの図形の性質を基にして、三角形の性質など平面図形に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	11
11	第2節 円の性質	【知】 図形の性質を基にして、円の性質など平面図形に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	12
12	【後期中間考査】		1
1	第3節 作図	【知】 基本的な作図方法を基にして、作図に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	4
2	第4節 空間図形	【知】 図形の性質を基にして、空間図形に関する基礎的な内容についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【思】 図形に対する直観力・洞察力を養い、図形の性質を論理的に考察し表現する能力を育成する。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	7
3	【後期期末考査】		1
			合計 70

通し番号	65	←通し番号を打つと下記に表示されます。			
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス			
1 科目の概要					
学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修・選択	単位数
情報ビジネス科	2 年	英語	英語コミュニケーションⅡ	必修	2
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア：日常的・社会的な話題について、一定の支援があれば必要な情報を聞き取り、話の展開や意図、概要・要点・詳細を把握できるようにする。 イ：日常的・社会的な話題について、一定の支援があれば必要な情報を読み取り、文章の展開や意図、概要・要点・詳細を把握できるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、詳しく伝え合いながら会話を続けられるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に詳しく伝え合えるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、論理的に詳しく伝えられるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に詳しく伝えられるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、論理的で詳しい文章を書けるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的で詳しい文章を書けるようにする。</p>				
教材	<p>All Aboard! English Communication II (東京書籍)</p> <p>All Aboard II WORKBOOK II (東京書籍)</p>				
留意点				開講予定 人数	
2 評価					
(1) 評価の観点					
観点	趣旨				
知識・技能	<p>・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。</p>				
思考・判断・表現	<p>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。</p>				
主体的に学習に取り組む態度	<p>・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>				
(2) 評価方法					
観点	評価方法				
知識・技能	定期考査・小テストリスニングテスト 等				
思考・判断・表現	定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等				
主体的に学習に取り組む態度	学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等				
3 履修上および学習上の注意					

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	Pre-Lesson		1
	Lesson 1	(知) 関係代名詞whatを用いた文の形・意味を理解している。 (思) 海外の行ってみたい所・そこでしてみたいことをまとめる。 (主) 海外の行ってみたい所について自分の意見をまとめる。	8
5	Let' Listen 1	(知) ホテルにチェックインする時に使われる文の形・意味を理解している。 (思) 必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 (主) 必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。	2
	Communication 1	(知) 病院で診察を受けるにあたり。症状や気分を説明する仕方を理解している。 (思) 必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 (主) 必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。	2
6	Lesson 2	(知) 比較表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめることができる。 (主) 相手の意見を知り、自分の考えをまとめようとしている。	8
	前期中間考査		1
7	World Box 1	(知) 感覚や感情を表す単語や表現を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えている。 (主) 自分がどんな感情になるのかということについて、適確に書いて伝えようとしている。	2
	Lesson 3	(知) 形式主語itを用いた文の形・意味を理解している。 (思) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 身近な行事について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。	10
8	後期期末考査		1
	文法のまとめ		2
9	Lesson 4	(知) 間接疑問文を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることができる。 (主) 好きな物語について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめることをしようとしている。	10
	後期中間考査		1
10	Let's Listen 2		2
	Extra Target 1		3
11	World Box 2		3
	Lesson 5	(知) to不定詞を用いた文の形・意味を理解している。 (思) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。 (主) 平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。	10
12	後期期末考査		1
	World Box 3		3
1	Clothes		
			合計
			70

通し番号	66	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
情報ビジネス科	2	年	家庭	家庭基礎	必修	2
科目の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>【知識・技能】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境について、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする</p> <p>【思考・判断・表現】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして生涯を見通して課題を解決する力を養う</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う</p>					
教材	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍 家基701）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返りから改善して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	実技・提出作品・単元テスト
思考・判断・表現	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習中の態度観察

3 履修上および学習上の注意

実習費3,000円徴収します

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 生涯を見通す	【知】人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している 【思】生涯を見通した自己の生活について考察し、表現できる 【関】生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている	3
5	第2章 人生をつくる	【知】青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係について理解している 【思】家族の一員として役割を果たし、家庭を築くことの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に取り組んでいる	5
6	第7章 衣生活をつくる	【知】被服の機能と着装、被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている 【思】被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装について考察することができる 【関】衣生活と健康について、課題の解決に取り組んでいる	10
7			
8	第9章 経済生活を営む	【知】家計の構造や生活の経済と社会の関わり、家計管理について理解している 【思】生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度と関連付け、問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】消費行動と意思決定について、課題の解決に取り組んでいる	9
9	第10章 持続可能な生活を営む	【知】生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解している 【思】持続可能な社会を目指して行動できるよう問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に取り組んでいる	2
10	第8章 住生活をつくる	【知】住生活の特徴、機能について理解し、計画・管理の技能を身に付けている 【思】住居の機能性や快適性について考察することができる 【関】住生活と住環境について、課題の解決に取り組んでいる	9
11	第3章 子どもと共に育つ	【知】幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子育て支援について理解し、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができる 【思】子どもを生み育てることの意義について考え、子どもの健やかな発達のために問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】子どもの生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	5
12	第6章 食生活をつくる ホームプロジェクト	【知】栄養の特徴や食品の特質、健康や環境、安全に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている 【思】食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察することができる 【関】食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	17
1			
2	第4章 超高齢社会を共に生きる	【知】高齢期の心身の特徴、尊厳と自立生活の支援や介護について理解し、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている 【思】高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	6
	第5章 共に生き、共に支える	【知】家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している 【思】家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】よりよい社会の構築に向けて共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	3
3	第11章 これからの生活を創造する	【知】人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している 【思】生涯を見通した自己の生活について考察し表現できる 【関】生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている	1
			合計 70

通し番号	67	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
情報ビジネス科	2 年	商業	総合実践	必修	2
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教材					
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	プレゼンテーション ワークシート
思考・判断・表現	プレゼンテーション ワークシート 学習観察
主体的に学習に取り組む態度	プレゼンテーション ワークシート 学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・生徒の自主性、積極性、計画性、誠実性、責任感、言葉遣いやマナー・コミュニケーション能力 などが、実践的活動を通して身につくように留意する。 ・キットビジネスタウンを身</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 総合実践の総説・ビジネスマナー 1. オリエンテーション 2. 領収書・小切手・手形・封筒の書き方 3. 看板作成、会社の定款作成 4. 名刺作成、名刺交換方法 5. 電話応対 6. ビジネスメールの書き方 7. 帳簿準備	【知】総合実践とは何か。3年間の学習の集大成としての科目であることと実際のビジネスシーンに関する概要について理解している。 【思】総合実践の授業を受けるにあたり、学習目標に沿った心構えと姿勢で取り組もうとする。 【主】ビジネスにおける基本的なマナーやスキルを身につけている。また、一連の取引に関する書類を正しく記入することができる。	6
5	第2章 模擬取引の準備・諸帳票の書き方	【知】模擬取引を実施する際の準備と心構えができています。	12
6	1. 期首残高設定	【思】観光ビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、評価・改善するとともに、改善計画を科学的に検討することができる。	12
7	2. 見積依頼書・見積書・注文書・注文請書作成	【主】また、一連の取引に関する書類を正しく記入することができる。	12
8	3. 納品書・物品受領書・請求書作成練習		6
9	4. 仕入・販売業務 5. 小売商との取引 【前期中間考査】		6
10	第3章 キッズビジネスタウン準備 1. キッズビジネスタウンとは 2. キッズビジネスタウンを行う上での心構え 3. キッズビジネスタウンで必要なこと・もの 4. キッズビジネスタウンのゴール 5. キッズビジネスタウン係分担 【前期末考査】 6. キッズビジネスタウンシミュレーション	【知】キッズビジネスタウンにおける一連の流れを理解している。 【思】各自の業務内容を理解し、責任を持って周りと協力しながら積極的に取り組んでいる。 【主】キッズビジネスタウンの準備において主体的に取り組む姿勢が見られる。	12
	第4章 キッズビジネスタウン 1. 実施 2. 反省 3. 次年度への提言 4. 報告書作成		
11	第5章 総合演習		6
12	1. 総合取引演習		9
1			6
2			12
3			6
合計			105

通し番号	68	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2,3 年	商業	原価計算	選択	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>				
教材	原価計算（実教出版）				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。
思考・判断・表現	原価計算をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。
主体的に学習に取り組む態度	適切な原価管理をおこなう力の向上を目指してみずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に関与し責任をもって取り組む態度が身についている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、学習観察
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、レポート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト、レポート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・「原価計算」は2年3年で学ぶ「財務会計」などの簿記会計科目を発展的に学ぶため、原価計算の内容を学びます。・原価計算に関する法規と基準の改正などに随時対応しながら、実務に即した例題を取り入れた学習活動及び取引の記録と財務諸表の作成の方法について考察や討論を行う学習活動を通して、適正な計算方法と製造原価報告書の作成ができるようにしていきます</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 原価と原価計算	【知】 製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。 【思】 工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。 【主】 製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。	2
5	第2章 原価計算のあらまし	【知】 原価要素の性格とその分類について理解している。 ・原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。 【思】 原価計算の目的について理解し、どのような場面で活用されるかについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	4
6	第3章 工業簿記—製造業における簿記—	【知】 工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。 【思】 製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	3
	第4章 材料費の計算	【知】 材料費の分類とその内容を理解している。 材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。 【思】 予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	9
	【前期中間考査】		2
	第5章 労務費の計算	【知】 労務費の分類とその内容を理解している。労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。 【思】 賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	9
	第6章 経費の計算	【知】 経費の分類とその内容を理解している。経費の消費高を計算できる。 【思】 経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	2
7	第7章 個別原価計算	【知】 原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。 個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。 【思】 製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。 実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。 【主】 個別原価計算の記帳方法について関心を持ち、意欲的に記帳に取り組むことができる。	4
8	【前期期末考査】		16
	第8章 部門別個別原価計算	【知・思】 部門別個別原価計算の必要性が理解できている。 部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	2
9	第9章 総合原価計算	【知】 単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。 平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。 等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成できる。 組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表を作成できる。 【思】 生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理解し、個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	7
10	第10章 工程別総合原価計算	【知】 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。 工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。 【思】 なぜ、工程別計算を行うのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	12
11	第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	【知】 減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。 副産物、作業くず、仕損品の意味と、それが発生した場合の記帳方法について理解している。 【思】 総合原価計算における減損・仕損じなどはどのように処理するのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	3
	第12章 製品の完成と販売	【知】 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。 販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 【思】 財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	7
	第13章 決算と本社・工場間の取引	【知】 工場会計の独立を理解し、記帳ができる。 【思】 製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	3
12	第14章 標準原価計算（その1）	【知】 標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 【思】 なぜ、原価標準を設定するのかについて理解している。 【主】 原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。	5
1	第15章 標準原価計算（その2）	【知】 パーシャルプラン、シングルプランによる記帳ができている。 【思】 原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	5
2	第16章 直接原価計算（その1）	【知】 直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 【思】 直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。 【主】 利益計算について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢がみられる。	4
3	第17章 直接原価計算（その2）	【知】 CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係が理解できている。 損益分岐点を求めることができる。高低点法による原価予測ができる。 【思】 損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	4
			合計
			105

通し番号	69	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2,3 年	商業	プログラミング	選択	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p>				
教材	プログラミング (東京法令出版)				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けたか。
思考・判断・表現	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けたか。
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けたか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習観察

3 履修上および学習上の注意

全商 情報処理検定試験 プログラミング部門2級程度の内容を学習します。(9月と1月に実施)

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章「情報システムの重要性」 第1節「情報システムとプログラム」 第2節「情報システムの活用」	【知】【思】【主】 情報システムやプログラムの概要について理解している。 身の回りにはどのような情報システムがあるか、考えようとしている。・情報システムの概要を学習することについて、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	9
5	第2章 「ハードウェアとソフトウェア」 第1節 「ハードウェアの機能と動作」 第2節 「ソフトウェアの体系と役割」	【知】【思】【主】 コンピュータの構成要素について、五大機能・五大装置などと関連させて理解している。 コンピュータでさまざまな情報を処理し、表現する方法について考えようとしている。 コンピュータの構成要素や情報表現、命令実行の仕組みに関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	9
6	【前期中間考査】 第3章「アルゴリズムの表現技法とデータ構造」 第1節「アルゴリズムの表現技法」 第2節「データ構造」	【知】【思】【主】 アルゴリズムとは何か、理解している。流れ図によってアルゴリズムを表す方法について理解している。 何かを処理する場合におけるアルゴリズムの重要性について考えようとしている。 アルゴリズムを表現する方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	12
7	第4章 「手続き型言語のプログラミング」 第1節「プログラミングの手順」	【知】【思】【主】 表計算ソフトウェアを用いてプログラミングをするための基本的な技術・操作方法を習得している。ユーザフォームとは何か、理解している。	9
8	第2節「データの出力と演算」	プロセスについて理解している。イベントに関連して発生するイベントプロシージャについて理解している。	6
9	第3節「条件判定と繰り返し処理」	学習した知識や技術を用いて、課題を解決するためのプログラムを作成する方法を考えようとしている。	12
10	【前期期末考査】 第4節「配列の利用」	表計算ソフトウェアでプログラミングを行う基本的な方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	12
11			9
12	【後期中間考査】 第5章「プログラムと情報システムの開発」 第1節 「情報システム開発の手順と手法」 第2節「プロジェクト管理」 第3節 「情報システムの評価と改善」 第4節 「情報システム開発と法規等」	【知】【思】【主】 情報システム開発の全体像について理解している。情報システムの開発手法について理解している。 開発手法ごとの長所や短所を踏まえ、どのような場合にどのような開発手法を用いるとよいか、考えようとしている。 情報システム開発の手法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	9
1	第6章「手続き型言語を用いた情報システムの開発」 第1節 「情報システムの開発演習①」	【知】【思】【主】 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を、実用的に使用できる形で理解・習得している。 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を活用し、求められている機能を備えたシステムを開発する方法を考えようとしている。	6
2	第2節 「情報システムの開発演習②」	情報システムの開発に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	6
3	【後期期末考査】		6
			合計 105

通し番号	84	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
情報ビジネス科	2,3 年	商業	ビジネスコミュニケーション	必修	3
科目の目標	商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を育成することを目指す。				
教材	ビジネスコミュニケーション（実況出版）				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。
主体的に学習に取り組む態度	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他社と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	小テスト、定期考査、ワークシートの提出
思考・判断・表現	小テスト、ワークシート、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	小テスト、ワークシート、定期考査

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	1章企業の組織と人間関係 1. 企業の組織と意思決定 2. 業務の進和方法 3. 仕事に対する心がまえ 4. 人的ネットワークの構築	第1章【知】【思】【主】 ・組織の構造と意思決定の関係を理解する。 ・業務の適切な進和方法やそれを実践する重要性を理解する。 ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法を理解する。 ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解する。 ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解する。	13
5	2章応対に関するビジネスマナー 1. 挨拶 2. 身だしなみ・表情・身のごなし 3. 言葉遣い 4. 名刺交換と紹介 5. 訪問・来客の応対	第2章【知】【思】【主】 ・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。 ・身だしなみ・表情・身のごなしなどを理解し、実践する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。 ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。 ・訪問・来客の対応などを理解し、実践する。	15
6	6. 電話の応対 7. 席次のマナー 3章交際に関するビジネスマナー 1. 交際のマナー 2. 食事のマナー	第3章【知】【思】【主】 ・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 ・食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。	
7	4章接客に関するビジネスマナー 1. 接客 2. ホスピタリティの概念と重要性	第4章【知】【思】【主】 ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解し、実践する。 ・ホスピタリティについて理解し外国人に対する接客の注意点について考察する。	
8	5章コミュニケーションの役割と思考方法	第5章【知】【思】【主】 ・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。 ・論理的な考え方やビジネスにおけるフレームワークを理解する。	18
9	1. コミュニケーションの役割と種類 2. ビジネスコミュニケーションの基本	第6章【知】【思】【主】 ・ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。 ・ディスカッションの方法や意義を理解し、討論することができる。 ・プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行うことができる。	
10	3. ビジネスにおける思考方法 4. ディベート 6章ビジネスにおけるコミュニケーション 1. ディスカッション 2. プレゼンテーション 3. 交渉 4. 苦情対応 5. 商品説明とワークショップ 6. ソーシャルメディアを活用した情報発信	第7章【知】【思】【主】 ・会議の目的と種類、基本的な流れや会場設営、議事の進め方や議事録の作成方法などについて理解する。 ・文書の種類と内容、社外文書・社内文書の作成方法、電子メールの利用、はがきや封筒の書き方や郵便物の特殊なサービスなどについて理解する。	14
11		第8章【知】【思】【主】 ・市場の国際化、ビジネスシーンの国際化について理解する。 ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。 ・ノンバーバルコミュニケーションの重要性について理解する。 ・コミュニケーションツールとしての英語について理解する。 ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。	15
12	7章コミュニケーションとビジネススキル 1. 会議 2. 文書におけるコミュニケーション		
1	8章企業活動のグローバル化		10
2	1. 国際化の進展とビジネス		12
3	2. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション		8
			合計
			105

通し番号	71	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2 年	商業	ソフトウェア活用	必履修	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>②思考、判断、表現 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>				
教材	<p>ソフトウェア活用（実教出版）</p> <p>全商情報処理検定模擬試験問題種ビジネス情報2級</p>				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。
思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしているか。
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	・定期考査 ・小テスト
思考・判断・表現	・定期考査 ・ワークシート ・発表
主体的に学習に取り組む態度	・授業への取り組み姿勢（グループワーク、振り返り） ・ワークシート

3 履修上および学習上の注意

<p>・「ソフトウェア活用」は、1年で学んだ「情報処理」の発展的な科目です。さらに3年での様々な情報系選択科目を学ぶための科目です。・アプリケーションソフトウェアの操作方法だけでなく、機能そのものの説明や利用例もあげられているため、応用力のあるリテラシーを体得することができます。</p>
--

通し番号	72	←通し番号を打つと下記に表示されます。
令和7年度入学生		北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修・選択	単位数
情報ビジネス科	2 年	商業	マーケティング	必修	2
科目の目標	マーケティングに関する知識と技術を習得させ、マーケティングの意義や役割について理解させるとともに、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。				
教材	マーケティング (実教出版)				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。
思考・判断・表現	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他社と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組んでいる。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査、確認テスト
思考・判断・表現	ワークシート、レポート、
主体的に学習に取り組む態度	実習日誌、議事録、ワークシート

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング 3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント	【知】現代市場におけるマーケティングの概要について理解している。 【思】マーケティングの意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて見いだしている。 【主】マーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえマーケティングに主体的かつ協働的に取り組んでいる。	5
5	第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因	【知】計画の立案に必要な消費者行動について理解している。 【思】購買意思決定までの過程について、消費者の心理と消費者行動に影響を与える要因を関連付けて見いだすことができる。 【主】消費者行動の理解について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	5
6	第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 【前期中間考査】	【知】市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】市場調査に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、情報を科学的に分析することができる。	3
	3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法	【主】自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	1
7	第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング	【知】STP分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】課題を発見し、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。	4
	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	【主】分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 【知】製品政策について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善している。	8
8	【前期期末考査】 第6章 価格政策 1. 価格政策の概要	【主】製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	7
9	2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	【知】価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善している。	1
10	第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要	【主】価格政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、価格政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	5
11	2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向 【後期中間考査】	【知】チャネル政策について企業の実例と関連付けて理解している。 【思】チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。	8
12	第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要	【主】チャネル政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、チャネル政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	1
1	2. プロモーションの種類 3. プロモーション政策の動向	【知】プロモーション政策について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】プロモーション政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。	8
2	第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング 【学年末考査】	【主】プロモーション政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、プロモーション政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	8
3	5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング	【知】・マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解している。 【思】・マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。 【主】・マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	3
			3
			合計
			70

通し番号	73	←通し番号を打つと下記に表示されます。
------	----	---------------------

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
-----------------	-------------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修・選択	単位数
情報ビジネス科	2 年	商業	財務会計 I	必修	3

科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
-------	---

教材	新財務会計 I (実教出版)		
	反復式学習と検定 簿記問題集 全商2級 (実教出版)		
留意点	電卓を使用します。	開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けたか。
思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を身に付けたか。
主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けたか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

全商 簿記実務検定2級～1級(6月と1月に実施)、全経簿記能力検定2級(5月、7月、11月、2月に実施) 程度の内容を学習します。学習状況に応じて、習熟度クラス編成を行います。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	1年次の復習 クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務 特殊な手形の取引	1年次の復習【知】【思】【主】 学習項目について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けか。 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、 ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けたか。	10
5	本支店間の取引 本支店会計合併財務諸表 株式会社の会計処理 株式会社の税金	自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けたか。	10
6	【前期中間考査】 第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規	第1編 第1章～第2章【知】【思】【主】 会計の意味や機能について正しく理解しているか。 会計公準がなぜ必要か説明できるか。 財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べようとしているか。	14
7	第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価	第2編 第3章～第4章【知】【思】【主】 貸借対照表の役割と区分・様式について、正しく理解しているか。 貸借対照表の区分はなぜ必要か説明できるか。 貸借対照表の区分について、自ら進んで学習する態度を示しているか。	9
9	第5章 流動資産PART 1 当座資産	第5章～第19章【知】【思】【主】 資産・負債・資本の各学習項目について意味と処理方法について理解しているか。 資産・負債・資本の各学習項目について意味と処理方法を身に付けているか。 資産・負債・資本の各学習項目について意味と処理方法について、 自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。	10
10	【前期期末考査】 第6章 流動資産PART 2 棚卸資産・その他の流動資産 第7章 固定資産PART 1 有形固定資産 第8章 固定資産PART 2 無形固定資産 第9章 固定資産PART 3 投資その他の資産		15
11	第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類		10
12	【後期中間考査】 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権 第19章 貸借対照表の作成		10
1	第3編 損益計算書 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 損益計算の意味と基準 第22章 売上高 第23章 売上原価、販売費及び一般管理費 第24章 営業外費用・営業外収益 第25章 特別利益・特別損失 第26章 損益計算書の作成	第3編 第20章～第21章【知】【思】【主】 損益計算書の役割と区分・様式を正しく理解しているか。 損益計算書の区分はなぜ必要か、説明できるか。 損益計算書の区分について、自ら進んで学習する態度を示しているか。	6
2	【後期期末考査】 第27章 その他の財務諸表	第22章～第26章【知】【思】【主】 費用・収益の各学習項目について意味と処理方法について理解しているか。 費用・収益の各学習項目について意味と処理方法を身に付けているか。 費用・収益の各学習項目について意味と処理方法について、 自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。	8
3			3
			合計
			105

通し番号	68
令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修・選択	単位数
情報ビジネス科	2,3 年	商業	原価計算	選択	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>				
教材	原価計算（実教出版）				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。
思考・判断・表現	原価計算をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。
主体的に学習に取り組む態度	適切な原価管理をおこなう力の向上を目指してみずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用責任をもって取り組む態度が身についている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、学習観察
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、レポート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	定期考査・小テスト、レポート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・「原価計算」は2年3年で学ぶ「財務会計」などの簿記会計科目を発展的に学ぶため、原価計算の内容を学びます。・原価計算に関する法規と基準の改正などに随時対応しながら、実務に即した例題を取り入れた学習活動及び取引の記録と財務諸表の作成の方法について考察や討論を行う学習活動を通して、適正な計算方法と製造原価報告書の作成ができるようにしていきます</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 原価と原価計算	【知】 製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。 【思】 工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。 【主】 製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。	2
5	第2章 原価計算のあらまし	【知】 原価要素の性格とその分類について理解している。 ・原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。 【思】 原価計算の目的について理解し、どのような場面で活用されるかについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	4
6	第3章 工業簿記—製造業における簿記—	【知】 工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。 【思】 製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	3
	第4章 材料費の計算	【知】 材料費の分類とその内容を理解している。 材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。 【思】 予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	9
	【前期中間考査】		2
	第5章 労務費の計算	【知】 労務費の分類とその内容を理解している。労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。 【思】 賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	9
	第6章 経費の計算	【知】 経費の分類とその内容を理解している。経費の消費高を計算できる。 【思】 経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳方法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	2
7	第7章 個別原価計算	【知】 原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。 個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。 【思】 製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。 実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。 【主】 個別原価計算の記帳方法について関心を持ち、意欲的に記帳に取り組むことができる。	4
8	【前期期末考査】		16
	第8章 部門別個別原価計算	【知・思】 部門別個別原価計算の必要性が理解できている。 部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	2
9	第9章 総合原価計算	【知】 単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。 平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。 等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成できる。 組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表を作成できる。 【思】 生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理解し、個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	7
10	第10章 工程別総合原価計算	【知】 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。 工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。 【思】 なぜ、工程別計算を行うのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	12
11	第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	【知】 減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。 副産物、作業くず、仕損品の意味と、それが発生した場合の記帳方法について理解している。 【思】 総合原価計算における減損・仕損じなどはどのように処理するのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	3
	第12章 製品の完成と販売	【知】 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。 販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 【思】 財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	7
	第13章 決算と本社・工場間の取引	【知】 工場会計の独立を理解し、記帳ができる。 【思】 製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	3
12	第14章 標準原価計算（その1）	【知】 標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 【思】 なぜ、原価標準を設定するのかについて理解している。 【主】 原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。	5
1	第15章 標準原価計算（その2）	【知】 パーシャルプラン、シングルプランによる記帳ができている。 【思】 原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	5
2	第16章 直接原価計算（その1）	【知】 直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 【思】 直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。 【主】 利益計算について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢がみられる。	4
3	第17章 直接原価計算（その2）	【知】 CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係が理解できている。 損益分岐点を求めることができる。高低点法による原価予測ができる。 【思】 損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	4
			合計
			105

通し番号	69
------	----

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
-----------------	-------------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
情報ビジネス科	2,3 年	商業	プログラミング	選択	3
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p>				
教材	<p>プログラミング（東京法令出版）</p>				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けられたか。
思考・判断・表現	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けられたか。
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けられたか。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト・ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習観察

3 履修上および学習上の注意

全商 情報処理検定試験 プログラミング部門2級程度の内容を学習します。（9月と1月に実施）

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章「情報システムの重要性」 第1節「情報システムとプログラム」 第2節「情報システムの活用」	【知】【思】【主】 情報システムやプログラムの概要について理解している。 身の回りにはどのような情報システムがあるか、考えようとしている。・情報システムの概要を学習することについて、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	9
5	第2章 「ハードウェアとソフトウェア」 第1節 「ハードウェアの機能と動作」 第2節 「ソフトウェアの体系と役割」	【知】【思】【主】 コンピュータの構成要素について、五大機能・五大装置などと関連させて理解している。 コンピュータでさまざまな情報を処理し、表現する方法について考えようとしている。 コンピュータの構成要素や情報表現、命令実行の仕組みに関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	9
6	【前期中間考査】 第3章「アルゴリズムの表現技法とデータ構造」 第1節「アルゴリズムの表現技法」 第2節「データ構造」	【知】【思】【主】 アルゴリズムとは何か、理解している。流れ図によってアルゴリズムを表す方法について理解している。 何かを処理する場合におけるアルゴリズムの重要性について考えようとしている。 アルゴリズムを表現する方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	12
7	第4章 「手続き型言語のプログラミング」 第1節「プログラミングの手順」	【知】【思】【主】 表計算ソフトウェアを用いてプログラミングをするための基本的な技術・操作方法を習得している。ユーザフォームとは何か、理解している。	9
8	第2節「データの出入力と演算」	【知】【思】【主】 プロセスについて理解している。イベントに関連して発生するイベントプロシージャについて理解している。	6
9	第3節「条件判定と繰り返し処理」	【知】【思】【主】 学習した知識や技術を用いて、課題を解決するためのプログラムを作成する方法を考えようとしている。	12
10	【前期期末考査】		12
11	第4節「配列の利用」	【知】【思】【主】 表計算ソフトウェアでプログラミングを行う基本的な方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	9
12	【後期中間考査】 第5章「プログラムと情報システムの開発」 第1節 「情報システム開発の手順と手法」 第2節「プロジェクト管理」 第3節 「情報システムの評価と改善」 第4節 「情報システム開発と法規等」	【知】【思】【主】 情報システム開発の全体像について理解している。情報システムの開発手法について理解している。 開発手法ごとの長所や短所を踏まえ、どのような場合にどのような開発手法を用いるとよいか、考えようとしている。 情報システム開発の手法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	9
1	第6章「手続き型言語を用いた情報システムの開発」 第1節 「情報システムの開発演習①」	【知】【思】【主】 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を、実用的に使用できる形で理解・習得している。 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を活用し、求められている機能を備えたシステムを開発する方法を考えようとしている。 情報システムの開発に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	6
2	第2節 「情報システムの開発演習②」		6
3	【後期期末考査】		6
			合計
			105